

# 春秋彩

Shunjusai

vol.50  
熊本県立大学広報誌  
2019  
Spring



## CONTENTS

学長あいさつ .....	2
<b>特集 学生の充実したキャンパスライフのために ...</b>	<b>3</b>
活躍する卒業生 .....	7
地域連携 .....	8
研究活動紹介 .....	10
国際交流・後援会だより .....	11
大学の動き .....	12
生き生き元気種 .....	14
おすすめの一冊・人事情報・古本募金のお知らせ .....	15
熊本県立大学アーカイブス .....	16

### 春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

 **熊本県立大学**  
Prefectural University of Kumamoto

# 情報の重さ

世は情報化時代です。私たちの身の回りには無数の情報が存在し、情報の格差で損得が生ずることもあります。いわゆるSociety5.0の時代はますます情報の多寡が政治も経済も利することになります。勉強に仕事にパソコン、インターネットは不可欠なものであり、町はスマホの画面を眺める人たちで溢れています。次から次へと新たな情報をもたらされては消えていく。それが延々と続いていく。今日の情報化社会がアナログオンリーの過去へと後戻りすることはないでしょう。

昔から情報は大切なものでした。いわゆる本能寺の変を直ちに察知した秀吉は情報戦の勝利者とされています。近代の世界的な戦争でも情報合戦が勝敗に直結しました。情報の価値や効能は、永遠に不変のものであります。しかし、今や情報の量とそれを取り巻く環境が昔とは全く異なります。不特定多数の人たちと画面を通して交流できる現代は、誰もが情報の発信者になれる時代であり、手に取れる情報の量が過去とは圧倒的に違います。危険な情報、忌避すべき交流と接触してしまう可能性も飛躍的に増大しています。この現状に、私たちはどう対応したらよいのでしょうか。

人間には快適な暮らしを追い求める本能があります。人間の創造物は、しばしばこの本能から生産されます。情報化社会の到来もその一環です。しかし、気がつけば、私たちは情報の大洪水のなかにいます。ちゃんと泳いでいるのでしょうか。将来にわたり、しっかりと泳ぎ切れるのでしょうか。

情報はあるのでしょうか。つくるのでしょうか。私たちはこの本質を見極める必要があります。情報の価値や効能は絶対的なものではありません。ただそこにあるだけでは情報は意味を為さないのです。活用され、役立てられてこそその情報です。その点で、情報は人ほどに生きて生かされて意味を為すものだと私は思います。



熊本県立大学学長

半藤 英明

Hando Hideaki

# 学生の充実した キャンパスライフのために

## キャリアセンター

キャリアセンターでは、学生、企業、そして学外の組織に対して様々なサポートや連携を行っています。

### ●学生向けのサポート

就職活動(就活)の主体となる学生向けのサポートでは、これまで経験したことのない就活の一步目をどう踏み出させるか、次に、活動を支援し、さらに時と状況に応じた相談、アドバイスなどを行う必要があります。

一步目を踏み出させるためには、就活とそれに繋がる就職に対して意識啓発が必要です。センターとしては、3年生での進路・就職意向個別面談や、就職ガイダンスを実施し、まずは、自分の意思を確認する活動と就活のための情報提供を行っています。今日、就活の必須とも言えるインターンシップも企業と連携し、単位認定も行っています。さらに、保護者向けのガイドブックを配布するなどの活動も行っています。

次に、活動支援としては、模擬面接、就職セミナーなど学生のニーズに合わせた支援を行っています。さらに企業情報の収集を適宜行い、学生への提供を常時行っています。また、各種資格試験の対策講座も実施し、学生が企業等に対して積極的にアピールできる活



キャリアセンター長  
(総合管理学部教授)

宮園 博光



動も支援しています。公務員や教員を希望する学生に対してのサポートも行っており、年次に渡る継続的な公務員講座、2次対策講座も実施しています。

さらに、時に不安になり、自分が見えなくなる就活生にも適宜に相談を実施しCCA(キャンパス・キャリア・エンジェル)を活用した指導、アドバイスなども行っています。それらの活動を学生にキャリアフォリオとして残し、自分を振り返り今後に生かすための活動につなげています。

### ●企業向けの活動

求人票の受付、来学される企業への対応、さらに新規求人への開拓も行っています。県内企業向けの学内合同セミナーを実施し、地場の企業と地元に残りたい学生との交流も図っています。また、個別の企業説明会も実施し、学生の希望にあった会合も開催しています。

### ●地域の大学としての役割

熊本県立大学は、地域の大学としての役割として学生を地域に残すこともあります。そのために、地元企業との協力も図り、後援会や同窓会の紫苑会との連携を行い、在学生のサポートや卒業生との接点も作っています。

現在、日本の働き方が大きく変わる転換期にあり、学生の就活、就職してからの生き方も常に変化していきます。熊本県立大学のキャリアセンターは、そんな時代の流れに乗り遅れないように、また、流されないように学生に個別最適化された就職活動とそれに繋がるキャリアアップのために学生に様々なサポートを実施し、企業と学外組織との連携を図っていきます。

## 就職相談員

経験豊かな専任の就職相談員が3名常駐し、進路や就職に関する相談を随時受け付けているほか、履歴書やエントリーシートの添削、模擬面接など親身になり支援を行っています。

## 就職相談員 福田 智子

熊本県立大学での勤務は今年で5年目になります。相談では履歴書添削や面接練習の他に、「これとやってやりたいことがない」「自己PRに書くことがない」「内定するか不安」など、毎年、様々にあります。



## 就職のこと、一人で悩まないで

就職活動は初めて経験することばかりなので、不安になったり、迷ったり、わからないことができたりするのは、ごく自然なことです。先輩達もそういった悩みを乗り越えて内定しています。自分で考えているだけではわからないこと、解決しないこともあります。一人で抱え込まずに、ちょっとしたことで気軽に相談してください。

Uターン就職など県外就職のサポートもきめ細やかに行っています。熊本県以外への就職を希望する学生もぜひ利用してください。

学生のみなさん一人ひとりが納得のいく就活ができるように、職員一丸となってサポートいたします。一緒にがんばりましょう！卒業生の方、企業・団体の方のご来校もお待ちしています！

スチューデント  
アドバイザー

## 踏み出せば、明日が見えてくる。就職相談は気軽に！

10月から2月にかけて、就職活動を経験した4年生がスチューデントアドバイザーとして、自身の学生生活や就職活動を踏まえて後輩達の進路選択などに関する相談に応じています。本学ではこのスチューデントアドバイザーをCCA（キャンパス・キャリア・エンジェル）と呼称しています。

## CCA 大津 龍司

(総合管理学部総合管理学科4年)

内定先:熊本県庁

公務員の勉強を開始した当初は、授業やサークル活動、アルバイトなどで勉強が思うように進みませんでした。先輩の紹介でキャリアセンターに通うようになり、内定を勝ち取った先輩方に何回も相談するうちに自分に合った勉強方法を見つけることができ、スムーズに勉強が進むようになりました。結果として公務員試験は8団体受験し、筆記試験は7団体合格することができました。また、就職相談員の方に面接カードの添削や面接練習をして頂いたことで面接でもしっかりと自分をアピールすることができました。キャリアセンターに入る1歩目は少し勇気がいることかもしれませんが、踏み出すことできっと何か変わると思います。



## CCA 金田 愛里

(文学部英語英米文学科4年)  
内定先:(株)九州産交ホールディングス

就活ってこういうことか、と気が付いたのは3月の就活解禁の後でした。3月になったとたんに多くの採用情報が公開され、エントリーシート提出日までに準備が間に合わないと思いキャリアセンターに行きました。相談員の方に親身に相談にのっていただき、エントリーシートの添削だけでなく面接の練習も納得のいくまで何度もしていただきました。回を重ねることに自分では気づかなかったアピールポイントも分かり、面接本番は自信をもって挑むことができました。キャリアセンターには就活に関する情報がたくさんあるので、悩んだら寄ってみる、くらいの気持ちで気軽に利用してみてください。何か得られるものがあると思います。



## インターンシップ

### 視野を広げ、未来を描く第一歩に

本学では各民間企業や行政機関へ直接学生の受入を依頼し派遣を行う単位認定型のインターンシップを実施しています。

就業体験を通じて実社会への理解と認識を深めるとともに、社会人として必要なスキルや能力の把握や社会人との交流の機会となっています。

#### 原 風馬

(総合管理学部総合管理学科  
3年)

派遣先:九州農政局

私は熊本駅に程近い「九州農政局」という農林水産省の地方支分部局で夏休みの期間、2週間にわたりインターンシップに参加させていただきました。その中で感じたことを以下の3点でまとめます。



#### ②今後に生かせると思った点など

先輩職員の方(新規採用1~2年目)と話す機会が多いため、1次試験の勉強方法や2次試験の面接で聞かれる内容、大学で頑張ったことなど、合格者の「生の声」を聞く絶好の機会です。さらに私達と年齢が近い職員の方が熱心に仕事に打ち込まれている姿を目にすることで試験勉強へのやる気アップにつながっていると思います。さらにインターンシップ中には他大学の学生との合同実習がありました。実習そのものも勉強になりましたが、他大学の同じ公務員を目指す人と出会うことで情報収集でき、インセンティブを得ることができる点もインターンシップの魅力、生かせる点だと思います。

#### ①インターンシップで勉強になった点

インターンシップを通じて九州農政局の仕事内容(農家の方への補助金交付業務や田畑の作付け調査)を、現地に赴く実習で教えていただけたため、説明会では決して得ることのできない体験をすることができました。また説明会ではなかなか聞きづらい福利厚生の話もインターンシップ中であれば、職員の方から自発的に話していただける機会が多いため、「ウラ話」を知ることができるという点でもインターンシップに参加する意義があると感じました。

#### ③その他、就職に向けた抱負

公務員試験は早い日程のものは4月から試験が始まり、毎日不安がつきません。ですがゼミの先生やキャリアセンターの職員の方など、多くの方の協力を頂いているためなんとか自分の気持ちの均衡を保つことができています。後輩の皆さんのお手本となれるように試験までの残りの時間を大切に使い、合格に近づけるよう努力しようと思います。これからも支援をよろしくお願い致します。

## 就職・進路状況

2017年度(平成29年度)卒業生(2018年(平成30年)3月卒業)の就職率は、前年同期比1.7%増の98.3%とな

り、熊本女子大学から現在の熊本県立大学に移行した1994年度(平成6年度)以降最も高い数値となりました。

### 2017年度(平成29年度)の就職等決定状況

(2018年(平成30年)5月1日現在)

区 分	文学部		環境共生学部			総合管理学部	合 計	
	日本語日本文学科	英語英米文学科	環境資源学科	居住環境学科	食健康科学科	総合管理学科		
卒業生総数	43	37	31	36	42	283	472	
内訳	1 就職希望者	38	31	23	36	35	255	418
	決定者数	37	31	23	34	35	251	411
	就職率(%)	97.4	100.0	100.0	94.4	100.0	98.4	98.3
	2 進学者	2	3	7	0	5	4	21
	3 留学・その他	3	3	1	0	2	24	33

### 業種別就職状況

業 種	サービス業	卸小売業	製造業	金融保険	医療・福祉	運輸・通信	建設業	教育関係	不動産	公務員等	電気・ガス・熱供給・水道業	合 計
就職者数	47名	51名	58名	42名	30名	44名	34名	23名	17名	62名	3名	411名

保健センター

## より良い学生生活のため身体・メンタルの2つの面をケア

各大学には保健センターが設置されていますが、これは皆さんがより良い学生生活を送るために、健康診断や健康相談、疾病の応急処置、カウンセリングなどを通して身体面及びメンタル面での健康を保つための援助を行うことを目的としています。当センターは2009年(平成21年)4月に設置され、現在、保健師2名が常駐しており、学内での急な疾病やケガなどに対して応急処置や身体測定、定期健康診断の管理等を行っています。また、臨床心理士による、身体面、メンタル面の悩みや症状に対して個別の相談も行っており、症状に応じて医療機関を紹介することも可能です。さらに、障がいを持つ学生さんへの相談受付も行っています。

センターの業務は多岐にわたっていますが、大別すれば、身体面のケアとメンタル面のケアの2つに分けることができます。身体面のケアについては、これまで構築された体制が機能しており、私自身も内科医ですので様々な疾病に対してある程度初期対応することが可能です。一方、修学に関する内容を含めた、メンタル面のケアについては、徐々に体制が構築されつつありますが、個々人の背景が様々であり、その対応に苦慮する場面も少なくありません。ここ数年でみても、延べ学生相談件数が約3,000件/年、延べカウンセリング件数が約350件/年となっており、件数自体も増加傾向で、いずれもメンタル面に関する内容が増えてきています。こうした状況に対応すべく、学生支援課をはじめ他の部署とも緊密に連携・協調しています。メンタルヘルス面の不調の原因には、「適応障害」などの精神科診断に相当するケースも多いとされており、早い段階で適切に対応することが必要です。特に県外出身者で、親元を離れて初めての一人暮らしともなれば、生活全般のことが負担になってしまう場面も多いと予想されます。精神的な疾病を有する学生さんに対しては、大学における環境整備が必要であり、修学場面においては教員への働きかけも必要となります。学生さんに対する支援体制は整いつつあるのに対し、教員への支援体制は未だ乏しく、この点は今後改善すべき課題ですが、当センターを介して、



保健センター長  
(環境共生学部教授)  
下田 誠也

担当教員の先生方に説明を行い、より良い方向性を模索したいと思います。

以上、現状と課題を踏まえて、保健センターのご紹介をさせていただきました。小さな所帯ではありますが、可能な限り学生の皆さんのために貢献したいと考えています。



# 活躍する卒業生



## 県民の笑顔のために

RKK熊本放送  
報道記者

平岡 夏希さん

(総合管理学部 2017年(平成29年)卒業)

### 今の仕事内容

### 一人でも多くの人にこのニュースを届けたい！

入社してまもなく2年。1日として同じ日の無い、非常に濃い期間を過ごしています。さらに、先輩方から教わることで働くことのやりがいや喜びを私なりに見つけ、毎日の変化を楽しみながら働いています。

現在、私は報道記者をしています。様々な事件事故に携わることで、多くの不安や恐怖を経験しています。自宅が燃えている住民にマイクを向けたり、事故で大切な人を亡くしたご遺族に話を聞いたり…。「私は何をしているのだろう」と自問自答することが多々あります。取材をすることで喜んでくれる人、笑顔になってくれる人、罵声を浴びせる人、悲しむ人、様々な人に出会ってきま

した。そのたびにたくさんの方のことを考えます。しかし私は、県民の一人でも多くの人に「このニュースを知ってもらいたい」と思って働いています。「起きたことを伝える」それは啓発でしかないのかもしれないかもしれませんが「次にこの事件、事故が起こらないために伝える」それが今の私の役目だと感じながら生きています。

しかし、事件事故ばかりを追う日々ではありません。記者として県内、至る所を駆け回り、取材をしてニュース原稿を作っています。『熊本の今』をより生の声で伝えるためにインタビューをしたり、わかりやすく伝えるために自らがリポートをしたりすることもあります(体験リポートや中継もしますよ！)

### 後進に伝えたいこと

### 自分の信じた道はきらめく「今」につながっている

取材相手に出会い、大切な時間を共有させてもらえることや二度と同じ時はない一瞬一瞬の奇跡に立ち会うことが出来たときには、何にも変えられない幸福感があります。取材をしている中で相手の想いをうまく伝えられているだろうかかと心配になることもあります。取材相手の方から感謝の言葉があったときには、すごく嬉しい気持ちになりますし、大きな達成感もあります。

そして、社会や職場にはたくさんの熱血教師がいました。皆、働

くことへの使命感や誇りを高く持っている方ばかりなのです。働くことは簡単ではなく、苦しくて涙することもありますが、自分の信じた道を貫いたらとっても楽しくて、きらめく「今」がありました！これからの学生生活や就職活動、あなたらしさを絶対に見失わず頑張ってください！

私も熊本県民の笑顔のために頑張ります。

# 地域連携

## たべラボロゴマーク・キャラクター決定！

4月に発足した、食育を主体的に実施する学生グループ「たべラボ」を広くPRするため、ロゴマークとキャラクターを学内で募集しました。その結果、ロゴマークに6点、キャラクターに11点の作品が集まり、投票により、環境共生学部居住環境学科2年大家君香さんの作品が選ばれました。また、キャラクターの名前を一般から募集し、食育・健康フェスティバルでの来場者投票により、「もぐ丸くん」に決定しました。



## 大学生と地域の今と未来を楽しく♪ 「第6回食育・健康フェスティバル」開催！

本学の食と健康に関する取り組みの成果を学内外へ発信するため、12月9日に学内で「第6回食育・健康フェスティバル」を開催しました。食育を推進する「たべラボ」メンバーを中心に、本学の学生がスタッフとなつて、柑橘食べ比べワークショップや、米粉ピザ作り体験、研究展示や試食、クイズラリー、特産品マルシェ、食育の日のメニュー販売など、食や健康をテーマにしたイベントを実施しました。当日は、およそ300人の来場があり、親子連れや地域の方でにぎわいました。



## 大学生の食を変える！高校生の思いの詰まった「食育の日」

学生の食生活改善に向けた取り組みとして、大学生の食を変える！をテーマに、10月19日、11月22日、12月19日を「食育の日」として、熊本農業高校生活科生徒と「たべラボ」メンバーで考えたメニューを学食で提供しました。農業高校生と「たべラボ」メンバーで、大学生の食生活の現状を調べ、食や健康に興味のない学生でも思わず食べたくなる

ようなヘルシーメニューを考案し、農業高校生が育てた食材を使って学食で提供しました。なお、11月には農業高校生が来学し、学食ステージでメニュー紹介を行いました。



## 社会人向け学びの講座「CPDプログラム」を実施しました

広く社会人・職業人を対象に「学び直し」、「学び足し」の機会を提供する講座「CPDプログラム」を実施しました。

今年度は、例年開講している「認定看護管理者教育課程サードレベル」、「自治体職員・まちづくり関係者向けまちづくり講座」に加え、新たに「保育所栄養士向けの栄養計算ソフト講習会」、「防災・減災ではじめるまちづくり講座」、「1

dayスキルアップ講座 仕掛け力と企画力」、「1 dayスキルアップ講座 スマホで始めるPR&広報」を加えた合計6講座を開講しました。

なお、「防災・減災ではじめるまちづくり講座」は、初めて本学以外の会場(天草市、水俣市)でも開講し、地域の方々に多数参加いただきました。



防災・減災ではじめるまちづくり講座in天草



防災・減災ではじめるまちづくり講座in水俣



自治体職員・まちづくり関係者向けまちづくり講座

## 学生GP(地域連携型卒業研究)公開審査会を開催

12月13日、2018年度(平成30年度)の学生GP(地域連携型卒業研究)公開審査会を本学CPDセンターで開催しました。11グループが発表を行い、連携先の企業・団体様から学生達の取り組みに対するコメントを頂戴しました。また審査の結果、学生同士の評価から「学生賞」を、教職員の評価から「優秀賞」及び「最優秀賞」を選出し、教学IR室長の山田俊教授より賞状が授与されました。



### 【最優秀賞】

環境共生学部 佐藤哲研究室(連携先:山都町役場)  
「空き家を地域資源として活用するための木造耐震シェルターの開発」

### 【優秀賞】

総合管理学部 津曲隆研究室(連携先:玉名市役所)  
「360度動画活用の一方法 地域広報キャンペーンへの組み込み」

### 【学生賞】

総合管理学部 丸山泰研究室(連携先:お菓子の香梅)  
「熊本観光文化検定合格者を活用した熊本のおもてなし手法の研究」

## 西日本豪雨災害被災地仮設住宅で暮らす高齢者にミニ椅子を送る ― つながりプロジェクト ―

10月、熊本から他の被災地を支援するための学生組織「くまの恩返しプロジェクト」と、益城町の特別養護老人ホームが設立したNPO法人「チーム安永」、それに山都町で林業を学ぶ矢部高校が連携し、「つながりプロジェクト」がスタートしました。

第1弾として、12月7日～8日の日程で2018年(平成30年)西日本全域大雨災害の被災地である愛媛県宇和島市吉田町の応急仮設団地を訪問し、熊本の仮設住宅における知見・経験をもとに製作した椅子を計12脚、贈呈しました。お昼は県立大学監修の防災カレーを提供し、仮設団地の方々に大変喜んで頂きました。



## 教員と学生が水上村へテーマ探索に行ってきました！

地域活性化に向け、地域資源の活用や産業振興など様々な分野において、相互に協力することを目的に、2018年3月に水上村と包括協定を締結しました。

これを契機に、教員と学生が現地に赴き、村を知り、村に潜んでいる素材や課題を自ら探索・発見する「水上村テーマ探索ツアー」を実施しました。ツアーの後、いくつかのテーマで検討がスタートし、地域活性化の取り組みが始まっています。



# 国立国会図書館で研究成果が利用されています

日本最大の国立国会図書館の地図室に、都市の歴史を研究している私達の研究成果、『戦前期外地火災保険特殊地図集成』シリーズが参考図書として配架され、国民の皆様にご利用されています。

## 日本最大の図書館、国立国会図書館で参考図書として利用

国立国会図書館の第一の役割は、国会の活動を資料・情報面で補佐することですが、日本最大級の蔵書を誇り、多くの国民が利用しています。卒業研究などのために利用したことがある方もいるかもしれません。国内の出版物は必ず国立国会図書館に納本されますが、これらは閉架書庫にあり、自由に閲覧することはできません。一方、ごく僅かですが、閲覧室に配架されて参考図書として皆さんが自由に閲覧できる図書もあります。参考図書中の参考図書という位置づけでしょうか。

国立国会図書館の中には、特色ある資料が閲覧できる専門室があり、その中の「地図室」では、日本だけではなく世界各地の地図が閲覧できます。私達が編集した『戦前期外地火災保険特殊地図集成』シリーズが、昨夏、この地図室に参考図書として配架されたのです。

## 住宅地図の原型？ 戦前に作製された火災保険地図

数年前に、東京の千代田区立日比谷図書文化館で、戦前期に作製された台湾と樺太の火災保険地図を偶然「発見」することができました。

火災保険地図は、現在の住宅地図のように、一軒一軒の区画が描き込まれた詳細な大縮尺の地図で、火災保険の料率を算定する際に利用されました。しかし、戦前

## 研究活動紹介

期のいわゆる「外地」のものはこれまで確認されていませんでした。特に一つ一つの区画がはっきりとわかる樺太の地図は他にはなく、大変貴重な地図です。これらの地図を使えば、戦前の樺太や台湾の街の様子が鮮やかに蘇ります。そこで、皆さんが簡単に利用できるように、火災保険特殊地図を作製した地図研究所の後身である都市整図社や柏書房の協力を得て300枚以上の地図を復刻出版しました。

私もこれまで国立国会図書館の参考図書を利用して、都市や建築の歴史に関する研究を進めてきました。私達の研究成果が、そのような参考図書に仲間入りできたことは、大変うれしく、取材(?)を申し込みました。お話を伺った地図室の加藤真吾課長補佐によれば、街の歴史に興味を持つ方が多く、特にご自分のルーツを探されている方に好評で、配架されたその日から利用があった、とのことでした。

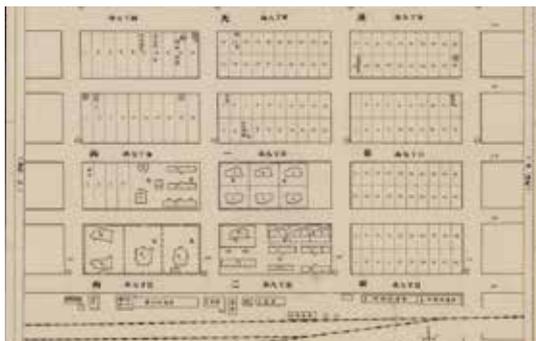
多くの皆様にご利用いただけるよう、これからも努力したいと思います。



教授 辻原万規彦  
環境共生学部居住環境学専攻

## プロフィール

京都大学大学院工学研究科環境地球工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。平成12年より本学勤務。



<上>配架された『戦前期台湾火災保険特殊地図集成』(2冊)  
<下>「樺太・豊原の火災保険特殊地図」(都市整図社提供)

国立国会図書館 地図室の閲覧室(正面の棚にあるのが参考図書)

さまざまな国の学生との交流が、  
県大生のグローバルな視点を育みます。

# 国際交流

## インドネシア・ブラウイジャヤ大学より 短期研修団が来学

12月4日から11日にかけて、本学がMoU(学術交流に関する覚書)を締結しているインドネシアのブラウイジャヤ大学より、短期研修団の学生10名が来学しました。

研修団は日本語教育研究室の学生らによって行われる日本語授業の受講のほか、茶道、着物、水前寺公園散策、餅つき、日本の首遊びなどを通して、様々な日本文化を体験しました。

また、国際関係を専門とする総合管理学部・高埜ゼミとの交流や最終日に行われた成果発表会では、インドネシアの多様な文化について歌や踊りも交えて発表し、大いに盛り上がりました。



## JENESYS 2018研修団が本学を訪問

12月14日、外務省が主催する対日理解促進プログラムJENESYSの交流事業の一環で、インド・ネパール・スリランカの大学生24名が来学し、本学の学生有志20名と英語によるディスカッションやキャンパスツアーを通して交流しました。

また、今回の研修テーマが「農業」であったことに因み、食育推進プロジェクト・本田特任講師による食育事業についてのプレゼンテーションを聴講したほか、環境共生学部・松本教授の「栄養運動生理学実習」の講義や実験にも参加し、食や健康に関する学びを深めました。



## 就職活動をはじめ、多彩に学生をサポート

# 後援会だより

後援会では、食育推進プロジェクトが行っている学生の食環境改善事業への助成をしています。今年度の県大生の食生活調査結果によると、大部分の学生の野菜摂取不足や栄養バランスの乱れが指摘されています。身近な食環境の一つである学食のメニューを食育的観点から改善することを目的にメイン料理のボリュームアップ、野菜100g以上提供、熊本県産の旬の食材使用等、創意工夫された学食の提供をしています。



- 就職対策講座(公務員試験対策、就職活動実戦、ITパスポート試験対策、簿記検定試験対策、行政書士試験対策、宅地建物取引士試験対策、ファイナンシャルプランナー、秘書技能検定対策、二級建築士受験対策)の助成又は開催経費の助成、資格取得及び講座受講等助成
- 就職セミナー・各学部による就職支援事業・在学生就職アドバイザー配置支援、PROGテスト(社会人基礎力の測定)・TOEIC®IP学内試験への実施支援、学内合同企業セミナー設営・福岡地区合同企業説明会参加助成、就職・進学写真代助成、保護者用就職ガイドブック配付

### 学生活動支援事業

- サークル活動費助成、白亜祭・PUKリンピック開催経費助成、体育委員会主催リーダーズトレーニング・サマーキャンプバス代助成、全国大会等出場助成、ボランティア保険料助成 等
- 学生用カラーコピー機の設置、コピーカード配布・販売、食育支援
- 学生のリクエストに応じ図書を購入し図書館へ配置 等

### 国際交流推進事業

- 海外留学助成、留学対策講座助成、留学生による学生等向け語学講座開講支援 等

### 教育究推進事業・その他

- 共同自主研究への助成、現地学習バス借上助成、インターゼミナール大会等への参加助成
- 卒業式のガウン貸与、卒業記念品贈呈 等

※新入生へは、本学合格通知の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしております。まだ未入会の方は、充実した学生生活を送るためにも後援会事業をご理解いただき、是非ご加入ください。年次途中であっても随時入会を受け付けております。

# 大学の動き

## 熊本県立大学環境共生学部20周年記念シンポジウムを開催しました！

10月14日、本学中ホールにおいて、熊本県立大学環境共生学部20周年記念シンポジウムを開催しました。基調講演では、国立水俣病総合研究センターの重藤和弘所長が「水俣病研究、これまでの取り組みと今後の展望」と題して講演されました。また、3学科代表講演、若手教員講演を実施し、卒業生や在校生、教育関係者など184名の参加者は、学部の歴史や学部教員の思い、活動などを知る貴重な機会となりました。



## 歴史文化シンポジウム2018 「平成の終末に語る明治と昭和」を開催

12月4日、本学大ホールにおいて、本学文学部主催で上記のシンポジウムを開催しました。成蹊大学名誉教授の揖斐高氏、静岡英和学院大学名誉教授の古郡康人氏の基調講演にはじまり、学生による水俣市立蘇峰記念館の資料調査報告をへき、上記二氏に本学客員教授の平野有益氏、歌人の林あまり氏が加わってのパネルディスカッションが行われました。180名以上の来客が熱心に聞き入っていました。



## ERIA設立10周年記念熊本県立大学国際シンポジウム 「日本と東アジアの経済協力」を開催しました！

2月15日、ホテル日航熊本にて、約400名の参加者の下、シンポジウムを開催しました。基調講演では福田康夫元首相とタイから来日したタノン・ピダヤ元財務大臣が登場。その後のパネルディスカッションでは、インドネシアからハッサン・ウィラユダ元外務大臣、ERIAチーフエコノミストの木村福成慶應義塾大学教授、相沢伸広九州大学大学院准教授が「日本と東アジアの経済協力」をテーマとして白石隆本学理事長のコーディネートの下、議論を行いました。



## 本学主催でコンピュータサイエンス教育週間を実施しました！

2020年度からのプログラミング教育必修化を踏まえ、12月3日～9日、本学主催でコンピュータサイエンス教育週間(Computer Science Education Week in Kumamoto 2018: CSEdWeek in Kumamoto 2018)を実施しました。本取組は、10月に熊本市、熊本大、(株)NTTドコモ、本学の4者による、熊本市における教育ICT推進を目指す「教育情報化の推進に関する連携協定」に基づくものです。

この期間、総合管理学部の飯村教授とその学生は熊本市内の小中学校へ訪問し、プログラミングの可能性やその楽しさについて講演しました。週末のメインカンファレンスでは、午前は飯村教授とその学生が教育関係者を対象にプログラミングを学ぶ意義について講演し、その後は飯村研の学生がメンターとなりプログラミング体験を実施しました。午後は、一般市民向けのプログラミング体験やハンズオンを実施しました。本取組は次年度以降も継続して実施する予定です。



## 環境共生学研究科河原あいさんが日本農芸化学会西日本支部大会優秀発表賞(修士の部)を受賞しました！

環境共生学研究科 食品バイオ工学研究室の河原あい(博士前期課程2年生)さんが、日本農芸化学会2018年度(平成30年度)西日本支部大会において、一般講演における学生の優れた発表に対して与えられる「優秀発表賞(修士の部)」を受賞しました。

研究題目「*Lactobacillus plantarum* PUK6が生産する多成分バクテリオシンの遺伝子解析」では、熊本県の伝統的発酵食品「味噌漬け豆腐」から、バクテリオシン生産乳酸菌*Lactobacillus plantarum* PUK6を分離・同定し、少なくとも3種類のバクテリオシンを生産することを遺伝子レベルで明らかにしました。



## 環境共生学研究科 諸熊恵美さんが Society of Environmental Toxicology and Chemistry Asia-Pacific 2018 Best Student Poster Presentation Awardを受賞しました！

環境共生学研究科 環境分析化学研究室の諸熊恵美(博士前期課程2年生)さんが、Society of Environmental Toxicology and Chemistry Asia-Pacific 2018 ConferenceにおいてBest Student Poster Presentation Awardを受賞しました。

研究題目「Comparison of protein binding constants for perfluorinated compounds by in vitro and in silico approach」では、残留性有機汚染物質に指定されているペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)およびその類縁化合物について、なぜこれらの物質は生物濃縮性が高いのかをタンパク結合実験およびドッキングシミュレーションにより明らかにしました。



# 活き活き元気種

## 海での経験は一生もの！



### ダイビング部

ダイビング部部长 増本 敦也(総合管理学部3年)

「世界中の海で潜れる自立したダイバー」を目指し、九州の海を中心に活動中！

私達ダイビング部は、熊本大学と合同の部活動で、現在は3年生4名、2年生6名、1年生11名の計21名の部員で活動しています。普段は毎週月曜日にミーティングを行い、土日を利用して天草などの海に潜りに行っています。夏と春の長期休暇には奄美大島近くの喜界島や、沖縄県南部の西表島や久米島などで約1週間の合宿を行っており、今年の春の合宿では海外へと足を運ぶ予定です。ダイビングは大学から始める人がほとんどですが、インストラクターの資格を持った監督の下で1年間を通して講習を行っていくため、学年が上がるにつれてライセンスを取得することができ、ダイビング経験のない人や泳ぎの苦手な人でも安心して活動できる部活です。

部の活動はダイビングだけでなく、いつもお世話になっている天草の地域の祭りに参加させていただいたり、上通りのアーケード内で水中写真展を開催したり、ダイビング機材を付けた状態で泳ぐ速さを競うフリッパー競技の大会に参加したりと一年間を通して様々な活動を行っています。なかでも水中写真展は部員が実際に潜って撮影した写真を展示した写真展で、今年の文化祭では「水族館」というテーマの下、写真だけでなく展示方法や順路などにも工夫しながら展示を行いました。写真にあわせて関連した豆知識を紹介したり実際の機材やタンクに触れられるコーナーを設置したりと、よりダイビングや海の世界を身近に感じていただき興味を持ってもらえることを目指して展示を行った写真展は、小さい子からお年寄りの方まで幅広い年代の人に楽しんでいただき、3日間を通して1,000人以上の方に来場していただくことができました。写真の展示は文化祭以外にも病院や喫茶店などで定期的に行わせていただいているので、写真を展示させていただける場を通して、見た人に少しでも海や部の活動に興味を持っていただけるようにこれからも積極的に取り組んでいきます。

ダイビングを通して得られる非日常はダイビングを通してしか得られない貴重な経験で、一生の思い出になります。また、活動の中でライセンスを取ることができるので大学生活の4年間だけでなく一生涯の趣味になります。自然が相手であるため少し危険な面もありますがこれからも安全に気を付けて、部員全員で充実した活動にできるよう取り組んでいきます。



『無味礼賛 —中国とヨーロッパの哲学的対話—』

フランソワ・ジュリアン 著／興膳宏 訳／小関武史 訳

出版社：平凡社 本体価格：2,400円（税込み2,592円）  
ISBN：4-582-71904-X

事象の本質に興味のある人におすすめ

『美味礼賛』のパロディかと思わせる書名(『無味礼賛』)に惹かれて本書を手に取りましたが、実はパロディではなく、「無味」のトピスを考察するととても奥深くとても難解なものでした。

著者は「特定の型にはまらない哲学者」として1996年10月29日付けのル・モンド紙で紹介されています。著者は、最も貴重にして人目を引く部分にではなく、最も単純にして本質的な部分が「無味」であると本書に記しています。

私は仕事柄、「食のおいしさとは何か」を考える機会が多くあります。本書をとおり、非力ながらも「食のおいしさ」の「周辺」が「美味」であり、「中心(本質)」が「無味」かもしれないという考えに至りました。

課題を解決するためには、課題の本質を見出す必要があると私は考えます。無味の性質を探究する本書は、事象の本質を見出す手がかりになるかもしれません。事象の本質について、興味がある方にぜひおすすめしたい一冊です。



環境共生学部食健康科学科 講師

中嶋 名菜

人事情報

●採用(平成31年4月1日付)

【文学部】

英語英米文学科 講師 武上 富美

【環境共生学部】

環境共生学科 食健康環境学専攻 助手 中下 千尋

【総合管理学部】

総合管理学科 公共・福祉部門 准教授 田畑 嘉洋  
総合管理学科 公共・福祉部門 准教授 松本 千晴  
総合管理学科 公共・福祉部門 准教授 中尾 富士子

●昇任(平成31年4月1日付)

環境共生学部 准教授 坂本 達昭  
総合管理学部 教授 澤田 道夫  
総合管理学部 教授 望月 信幸

●退職(平成31年3月31日付)

文学部 准教授 平岡 隆二  
環境共生学部 教授 井上 昭夫  
総合管理学部 教授 荒木 紀代子  
総合管理学部 准教授 安浪 小夜子

古本募金にご協力ください

不用の書籍、CD、DVD をご寄附いただき、熊本県立大学未来基金において、本学の教育研究に役立てる取組です。ぜひご協力ください。

〈インターネットでの申込みの場合〉

梱包

書籍、CD、DVDを段ボール箱に詰めてください。(インターネットでの申込みの場合、申込書の封入は不要です。)

申込

「熊本県立大学 古本募金」ホームページのお申込みフォームに必要事項を入力してください。

発送

指定のお時間に 宅配業者が伺います。5冊(点)以上は送料無料で。

※提携会社バリューブックスにて買い取られ、その売却代金が「熊本県立大学未来基金」へ寄附されます。  
※電話での申込みも可。バリューブックス 0120-826-292へ。「熊本県立大学 古本募金」とお伝えください。

詳細はホームページへ  
<http://www.furuhon-bokin.jp/pu-kumamoto/>

熊本県立大学古本募金

検索



## レンベルトゥス・ドドネウス『草木誌』蘭語訳第2版

子牛革装フォリオ判、ライデン：フランソワ・ファン・ラフェリンゲン、1618年  
 (Rembertus Dodonaeus: *Cruydt-boeck*. Leyden, Plantijnsche Druckerij van François van Ravelingen, 1618)

著者ドドネウスは、現在のベルギーに生まれ、18歳でルーヴェン大学の医師の資格を取得した後、天文学、地理学、博物学などを修めたが、とりわけ植物学に情熱を傾け、後にオランダ・ライデン大学の医学教授となった。

稀観書である本書は、ラテン語で編まれたドドネウス『草木誌』(1583)を改訂増補して著者の自国語に訳した蘭語訳の第2版(1618)。5巻から成り、第1巻は植物の総論、2巻以降は独自の分類に基づいて巻を分け、植物をアルファベット順に並べ、その種類、形態、生息地、

花期、名称、薬効、利用法などを整然と記している。なお、扉左下はドドネウス、右下は仏語版の訳者クルシウスの絵像である。

18世紀中葉の日本においてははまだオランダ語をほとんど読解できない状況であったが、植物とその薬効への関心から『草木誌』蘭語版はただちに舶載され、八代将軍徳川吉宗は野呂元丈に翻訳を命じた。元丈は8回にわたって江戸参府のオランダ人医師に内容について質問し、苦勞の末に抄訳「阿蘭陀本草和解」(1742-50)を作成した。

解説：文学部 日本語日文学科 准教授 大島明秀

### 「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。  
 いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。  
 〒862-8502 (住所記載不要)

熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行

FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

### 発行：熊本県立大学

〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号  
 TEL 096 (383) 2929 (代)  
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>